

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1115 2013年2月号

四国森林・林業研究発表会を開催

60回目を迎えた今年の研究発表会は、局署等のほか、教育機関、各研究機関等から21課題が発表されました。

【詳細2頁】



森林技術センターが考案・発表した低コスト小型囲いワナ

四国森林・林業研究発表会を開催



〈指導普及課〉

一月二四日、四国森林管理局大会議室において、「平成二四年度四国森林・林業研究発表会」を開催しました。

六〇回目を迎えた今年の研究発表会は、局署等のほか、教育機関、各研究機関等から二一課題（特別発表を含む）が発表されました。

先ず、新木局長から、「今回発表される課題は、森林整備、木材利用を始め、治山、林産物、獣害対策、自然環境保護、そして森林環境教育など多くの今日的課題について研究の成果を発表して頂くものです。発表される方々が取り組んでいる課題が、これからの森林づくりなどに反映されることを期待します。」と挨拶がありました。

美市立片地^{かたじ}小学校、土佐清水市立幡陽^{ばんよう}小学校等から、学習活動の一環として取り組んでいる内容について発表があり、会場から多くの拍手が送られました。

特に、今回の会場で目立ったのは、署の森林官等からの質問でした。自署等の取組みの現状と併せての質問には聴講者にも好印象を与えていました。

発表を終え、独立行政法人森林総合研究所四国支所の外崎支所長を審査委員長とする審査委員による審査の結果、四国森林管理局長賞として七課題（最優秀賞一課題、優秀賞三課題、奨励賞三課題）、また、（一社）日本森林技術協会理事長賞、（一財）日本森林

業振興会会長賞としてそれぞれ一課題が選出され、各受賞者に表彰状と記念品が授与されました。

最優秀賞に輝いた四国森林管理局森林技術センターの発表は、シカ捕獲に用いる「囲いわな」における、低コストで軽量化等の取組が高く評価されました。なお、今回の発表課題と審査結果は、九頁のとおりです。受賞おめでとうございませう。

（写真は、最優秀賞及び優秀賞を紹介しています。）

【最優秀賞】

囲いわなによる

シカ捕獲試験（経過報告）
森林技術センター



佐竹業務係長（左側）
鷹野森林技術普及専門官（右側）

【優秀賞】

「旅するチョウアサギ

マダラの学習を通して」
香美市立片地小学校四年生



受賞に喜ぶ片地小学校の
児童の皆さん（四年生）



受賞した中村治山第一係長

【優秀賞】
「剣山地域における自然景観に配慮した治山工事について」
徳島森林管理署



受賞を喜ぶ高知工業高校の生徒の皆さん

【優秀賞】
高知工業高校
野球部の部室製作
高知県立高知工業高等学校
建築科三年生



一月二〇日、林野庁において、平成二四年度国有林野事業業務研究発表会(三部門)が開催されました。今回の発表会には、四国森林管理局から四課題を発表しました。

○森林技術部門では「工事箇所における写真撮影の方法について」を局治山課徳満設計指導官、四万十森林管理署猪迫治山第二係長が発表し、日本林政ジャーナリストの会会長賞を受賞しました。また、「囲いわな」によるシカ捕獲試験」を森林技術センター鷹野森林技術普及専門官、佐竹業務係長が発表しました。

○森林ふれあい部門で「段

の谷山国有林を活用した地域活性化について」を佐喜浜の源木を育てる会田村拓氏、阿野田直人氏、安芸森林管理署吉田森林ふれあい係長が発表し、林野庁長官賞(最優秀賞)を受賞しました。

○国民の森林部門で「屋島の国有林における落石対策の検討と整備」優先順位判定と実施状況について」を香川森林管理事務所澤村主幹(治山第二)が発表しました。

なお、今回の研究発表会の内容等については、林野庁において発表集が作成された後、署等へ配布される予定です。



佐喜浜の源木を育てる会
阿野田 直人 氏



佐喜浜の源木を育てる会
田村 拓 氏

今後とも、森林・林業に対する多様なニーズに対応していくための技術開発等の取組に期待しています。受賞おめでとうございます。

●森林ふれあい部門
林野庁長官賞(最優秀賞)

「段の谷山国有林を活用した地域活性化について」



四万十森林管理署
猪迫治山第二係長



局治山課
徳満設計指導官

●森林技術部門
日本林政ジャーナリストの会会長賞



安芸森林管理署
吉田森林ふれあい係長

職員が一日先生に

高知市立愛宕中学校で

〈指導普及課〉



一二月二〇日、高知市立愛宕中学校において、「わくわくWORK講座」が開催されました。これは、生徒たちに、仕事をする意義

やその重要性等について、警察や弁護士、新聞記者、アナウンサーなど一六名が講師となつて、学年・学級別に授業を行うものです。当局にも依頼があり、一年生(三四名)を対象に「森にまなぶ」と題して「森林の働き」について授業を行いました。



授業の様子

初めに、生徒から木への漢字を発表して黒板へ書いてもらい、また、イチヨウの葉っぱを見せながら黄葉のメカニズムや手作りの資料等により間伐の意義と大切さ等を勉強しました。生徒からは「あらためて

木への字の持つ意味がわかった」、「森林のはたらきを見直した」等の感想が寄せられました。

授業終了後には、教職員と講師、保護者等で反省会が行われ、教職員からは、地域に在住している身近な講師から、生徒たちが様々な分野の話を聴けたことの意義や大切さなどが話されました。講師からは、生徒たちの聴く態度の良さや質問の内容などが話され、教職員等と講師間の交流も深めました。

指導普及課では今後とも、地域への貢献に資するとともに、森林環境教育の推進を図るため、今回のような学校からの要請に積極的に協力していく考えです。

各地のたより

四万十川を

ミサゴが飛翔

〈ふれあいセンター〉



が四万十川にその雄姿を映しています。

当センターが所在する四万十市西土佐江川崎から上流の四万十町十川辺りにかけて、猛禽のミサゴ数羽

ミサゴは頭と下面が白く、黒い眼帯が特徴で、最近では飛来するミサゴに魅せられ事務所の窓際に双眼鏡を備えて観察。十川地区では四万十川に架かる電線に留まり、川面を見つめて獲物を狙う姿がたびたび見かけられ、出張時の楽しみの一つとなっています。豊かな四万十川はミサゴをも育んでいるようです。

ミサゴ



また、昨年は高知新聞「声ひろば」に「野鳥が少なくなったのでは・・・」との投稿が載り、同じ思いを抱いていましたが、この冬、隣家のクロガネモチや国道

沿いのサルスベリには、わずかに残る実を求めてメジロやヒヨドリが群がってきており安堵しています。

当センター周辺は、やがてウメやサクラの開花とともに春を告げるウグイスの歌声が聞こえてきます。



〈ふれあいセンター〉

森林からのおくりもの

一月九日、愛媛県松野町立松野東小学校から依頼を受け「森はともだち講演会」で講義を行いました。

最初は「講演会」の依頼ということから、「堅いお話をしないといけないかな？」と戸惑いましたが、そこはふれセン、やはり森

大きな椎茸できるかなあ？



林学習は「元気に、楽しく」でなければと、森林からの贈物として「シイタケの駒打ち体験」をしてもらうことにしました。

秋の味覚を与えてくれる森林の役割を学びつつ、椎茸の育成を楽しみ、そして最後はお腹も満たされるという一石三鳥の企画です。

まずは、「森林の働き」

について復習の意味も含めて簡単に講義を行いました。松野東小学校は愛媛県教育委員会の「森はともだち推進事業」の指定校として平成二三、二四年度と森林学習を行っており、こちらからの質問にも良く答えました。

本日のメインイベント「シイタケの駒打ち体験」が始まると、講義で静かな様子は一転し、初めて使う電動ドリルや奇妙な形のシイタケの種駒相手に大騒ぎしていました。

高学年がクヌギやナラの原木にドリルで穴をあけ、その穴に低学年が種駒を木槌等で打ち込むという分担作業でしたが、お互いの作業も気になって仕方がない

ようでした。

また、この日は保護者参加型の講演会でしたので、ご自慢の腕前を披露されている方もおられました。

出来上がったシイタケ原木は各自が家に持ち帰り、来るべき収穫を待つようです。果たして結果は…？こちらも学校（児童）からの回答を聞くのが楽しみです。

なお、子どもたちが、楽しみながらも一生懸命に作業をしている様子は、松野東小学校のウェブサイトにもアップされています。

躍る木工教室



〈ふれあいセンター〉

二月一日、高知県大月町立大月小学校の一、二年生の児童六七名を対象に木工教室を開催しました。

一年生はクマのストラップと小枝で作った鉛筆「モックン」を、二年生はクマとフクロウの置物を作りました。

初めに、一年生は紙芝居で森林の大切さや役割を、二年生は木材の特徴や利用方法を学習しました。

その後の、木工教室は対象が低学年のためノコギリやクラフトナイフなどの刃物は使わず、予め職員がサ

クラやウツギ、ヒメシヤラ、クロモジなどの枝を輪切りやクマ、フクロウの胴体、尻尾や翼、くちばしなどに加工した部材を木工ボンドで貼ったり、小枝に鉛筆の芯を埋め込み削ったものにポスカやサインペンで顔を描いたりする方法としました。

木工用ボンドは速乾性とはいえ、すぐにはくっつかないため、部材にボンドをつけた後、しばらく乾かせてから貼り合わせます。ボンドの乾燥を待つ間、「一分間触らないように」と指示するとカウントダウンが始まり、そのうち部材にボンドをつけるたびに部材を両手に躍りだし、思わずぬとこで盛り上がりまして。

できた(一年生)



おかげで作業はスムーズに進み、全員が時間内に作品を仕上げる事ができました。

各学年で全員が同じものを作りましたが、自然木の枝で作るクラフトは、木の種類や太さ、形などが様々で全く同じものではできません。また、児童個々の感性で付けた部材や彩色もあって、個性豊かなものに仕上がりました。

低学年の木工教室は、作業の簡素化や安全のため準備に苦労しますが、出来上がった作品を手にして喜ぶ児童の様子に木材の良さをあらためて実感させてくれます。

管内のオオヤマレンゲ

群落が文化財に指定

〈徳島森林管理署〉



一二月二〇日、三好市教育委員会は、三好市東祖谷の高ノ瀬(標高一七四一m)の西、三嶺国有林三六林班イ小班に自生するオオヤマレンゲ群落二、四haを、三好市の文化財天然記念物(植物)に指定しました。

オオヤマレンゲは、深山に自生するモクレン科の落

葉低木ですが、自生本数は少なく、徳島県レッドデータブックでも絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。通常、七月上旬に径一〇cmほどの芳香のある白い花を咲かせますが、その清楚の姿から「天女の花」と呼ばれています。

このオオヤマレンゲ群落は、平成一八年にNPO法



「天女の花」と呼ばれているオオヤマレンゲ

人剣山クラブが発見し、現地調査を行った結果、約百本が自生しており、四国では他には見られない貴重な群落であることが判明しました。

一方、この一帯はニホンジカの生息密度が高く、オオヤマレンゲの葉や樹皮もシカの食害を受けていたため、当署が資材を提供し、三好市及び剣山クラブと協力して、オオヤマレンゲに樹木ガードを取り付けました。また、オオヤマレンゲの生育状況調査や、群落の面積画定のための測量なども協力して実施してきました。昨年は、シカ食害のよって劣化している森林生態系全体を保全するため、資材を空輸し、尾根筋にシカ除けネットを六五〇m設置し

ました。

このような保護活動を行いつつ、剣山クラブの要請を受けた三好市は、この群落を郷土の宝として未来に引き継ぎたいとして、文化財に指定することを目指しました。当署は三好市と協力して、資料作成や説明などを行った結果、昨年中には林野庁及び管理局の理解が得られたため、九月二五日に文化財指定の同意を行いました。その後、三好市教育委員会は、三好市文化財保護審議会から文化財指定が相当との答申を受け、天然記念物（植物）に指定したものです。

今後、当署は、三好市が策定した保護管理計画の実施に協力し、説明板、案内標の設置などを行うことと

しています。

来年度から国有林野事業は一般会計化され、公益的機能のより一層の発揮が求められますが、当署の管轄する国有林にも民有林では見られない稀少かつ多様な自然が残っていることから、今後とも地域や市民の理解と協力を得ながら、国有林を管理経営していく必要があると考えています。



当署では、公募により森林教室を実施しています。

今回、後期分の第五回目の森林教室（木工クラフト）を一月一六日、徳島市南昭

和町のみずほ保育園で、地元の子供たち一二名を対象に実施しました。

みずほ保育園から「森林教室を通じて、木のぬくもりを感じられるような卒園記念品を作りたい。」という内容で依頼を受けて実施したものです。

始めに、森林に関係のある十数枚の絵を使い、森林の役割について説明を行いました。空気や水をきれいにする働き等、森林の大切さについて理解を深めてもらいました。

子供たちは、元気な声で返事をするなど真剣に話を聞いていました。また、木工用に持参したクヌギ、マテバシイ、コナラなどのドングリを見て「たくさん種類がある！」「これは何の

実ですか？」などの質問があり興味津々の様子でした。

木工クラフトでは、徳島県産のスギ間伐材を使用した「木製時計」を作りました。スギ板に時計のキットを取り付けた土台に、木の枝、ドングリ、松ぼっくり

で飾り付けをして、色ペンでカラフルに塗るなど、子供ならではの視点で思い思いに木製時計を仕上げました。また、先生方にも木工クラフトに参加していただき、材料と向き合いながら夢中になって取り組んでいました。やはり、普段から子供たちと接する先生方はアイディアも豊富で、飾り付けの配置、センス、表現力など逆に私達、職員の方が良い勉強になりました

た。

当署では、森林の公益的機能や木材利用についての理解を深めてもらうため、地域や学校等の要望に応えつつ、今後とも計画的に森林環境教育を実施していきたいと考えています。



皆さん上手にできました

お知らせ

日本建築の 模型寄贈される

〈総務課〉

高知県土佐市在住の岡林様より、「在来工法による日本建築1/10模型」等三点を寄贈していただきました。岡林様によると、大工仕事の合間に作製されたそうので、「多くの方に模型を見ていただき、木の良さを、日本建築の良さを知っていただきたい」とのことです。当局に寄贈されました。

この模型は、四国森林管理局一階、「森林ふれあい館」常設展示しています。多くの方のご来場をお待ちしています。



五重塔の模型



日本建築の模型と製作者(岡林氏)

高知龍馬空港

ロビーへの展示

〈指導普及課〉

四国森林管理局ホームページで公開しているカレンダーシリーズの二〇一三年版「森林鉄道と四季」の素材と、局長室所蔵の森林鉄道写真数枚を、高知龍馬空港のロビーに展示しております。高知を訪れる方に、「森林鉄道」に興味を持っていただき、また、木のぬくもりを感じていただけるよう展示しました。

展示期間は、三月一〇日までの予定です。



空港ロビーで展示品を鑑賞している方々

平成24年度四国森林・林業研究発表会における受賞課題

四国森林・林業研究発表会にご協力頂き御礼申し上げます。

発表会には局署等 11 課題、教育機関等 5 課題、試験研究機関（特別発表）5 課題の計 21 課題の発表があり、下記の課題が受賞したことをお知らせします。

- 四国森林管理局局長賞（最優秀賞 1 課題、優秀賞 3 課題、奨励賞 3 課題）
- 日本森林技術協会理事長賞（1 課題）
- 日本森林林業振興会会長賞（1 課題）

記

（優秀賞、奨励賞は発表順）

受賞名	受賞課題	発表者	
		所属	氏名
最優秀賞	困いわなによるシカ捕獲試験 ～経過報告～	四国森林管理局 森林技術センター業務係長 森林技術普及専門官	さたけ ゆうき 佐竹 祐記 たかの たかし 鷹野 孝司
優秀賞	「旅するチョウ アサギマダラの学習を通して」	かたじ 香美市立片地小学校 4 年生	かたおか ゆうき 片岡 裕太 ふじもと よしひさ 藤本 佳久 こい 大河 古井 大河 いくい ゆうと 幾井 悠人 きただい こうざぶろう 北代 滉三郎 てらおが みく 寺岡 未来
優秀賞	「剣山地域における自然景観に配慮した治山工事について」	徳島森林管理署治山第一係長	なかむら まさふみ 中村 正史
優秀賞	高知工業高校野球部の部室製作	高知県立高知工業高等学校 建築科 3 年生	しまぎ こうせい 島崎 晃誠 たむら よしゆき 田村 嘉志 ちかもり ひかる 近森 光 まえかわ れいち 前川 礼一 やざわ しょういち 矢澤 彰一 やまもと たつや やまもと 達也
奨励賞	ふるさと土佐清水の豊かな海とそれを支える森林	ばんよう 土佐清水市立幡陽小学校 5 年生	なかむら てつや 中村 徹弥 おかだ ぜんた 岡田 善太
奨励賞	『かがわのひのき』割り箸で森林づくり 一割り箸から木づかいの良さを学び、循環型社会をつくろうー	しもたかせ 三豊市立下高瀬小学校教諭	まんき ひろよし 萬亀 弘吉
奨励賞	「森と人とのつながり」	高知県立四万十高等学校 自然環境コース 3 年生	たけだ れい 武田 滯 たかま しょうた 高間 翔太
日本森林林業振興会会長賞	「森林セラピーとその可能性」	梶原町立国保梶原病院 内科 医師 松原まろうど会 会長 四万十森林管理署 森林ふれあい係長	ばん まさうみ 伴 正海 しももと ひろゆき 下元 廣幸 もりした よしはる 森下 嘉晴
日本森林技術協会理事長賞	ツリーシェルターを用いた低コスト造林手法の検討	住友林業フォレストサービス（株）森林企画部	やしろ けんいち 矢代 健一